

スポーツを通じた共生社会創造プロジェクトの取組について

障がい者支援課

来年の東京 2020 パラリンピック、2027 年の本県での全国障害者スポーツ大会開催を見据え、昨年 6 月に県と公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター（パラサポ）が締結した協定に基づき、障がいの有無や年齢、性別を問わず、誰もがともに楽しむことができるユニバーサルなスポーツであるパラスポーツの体験と教育を通じて共生社会を目指す取組「パラウェーブ NAGANO」プロジェクトを推進。

1 本年度の取組

(1) 体験機会の拡大

- ・市町村や競技団体と連携して、県内 77 市町村でパラスポーツの体験会を実施する信州パラスポキャラバンの実施
- ・ボッチャのサポーター養成研修と県大会の実施
- ・総合型地域スポーツクラブと連携した障がい者スポーツの実施環境の整備

(2) 教育と学びの普及

- ・パラサポが提供する教育プログラムの普及（国際パラリンピック委員会公認教材 I'mPOSSIBLE、あすチャレ！事業の実施校の拡大）
- ・パラサポ教育プログラムに関する教員向け研修の実施
- ・県内大学と連携し、学生に対する障がい者スポーツ指導員養成研修の実施
- ・企業向けダイジェストセミナーの開催

2 キックオフイベント「パラスポーツフェスタ in 松本」の開催状況

(1) 日時 6月2日（日）10:00～15:00

(2) 場所 松本市総合体育館

(3) 主な実施内容

- ・8種類のパラスポーツ*体験コーナーを用意し、約550人の来場者がゲストの県内プロスポーツチームの選手等とともに実際に体験。
 *車いすバスケットボール、ボッチャ、パラ・パワーリフティング、ゴールボール、フライングディスク、スポーツウェルネス吹矢、ウォーキングサッカー、レーザー体験の8種類
- ・阿部知事によるパラウェーブ NAGANO の取組及びロゴマークの発表
- ・オリパラのメダリスト等と阿部知事との対談 など





【プロジェクトの名称とロゴマーク】

一連の取組の発信力を高めるため、公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンターと協議の上、本年度からプロジェクトの名称を以下のとおりとすることを決定。

「パラウェーブ NAGANO」

1998年に長野パラリンピックを開催したNAGANOの地から、いま新しいパラスポーツ普及の波を起こし、東京2020パラリンピック、2027年の長野県での全国障害者スポーツ大会を成功させ、子どもや高齢者も障がいのある人もすべての人を巻き込んだ大きなパラスポーツの波として「スポーツを通じた共生社会」を目指す。

